



Washington Japanese Language School

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



2021年4月24日 発行 第4号

ワシントン日本語学校
校長 神戸 昭夫

[ワシントン日本語学校事務局]
HOT LINE (301)962-7415
TEL (301)962-7410
FAX (301)962-7411



たくさんの「たい(タイ)」を 見つけることができました。



ワシントン日本語学校特別総会でお時間をいただき、次のようなこととお話させていただきました。

一つは自己紹介を兼ねて、38年間の教員生活の中で、子どもたち、保護者の皆様、教職員、地域の皆様に繰り返しお話ししてきたこと、もう一つは学校経営方針の基本的なスタンス「一人の百歩より百人の一步」とこれから取り組む「共働学習」、「到達目標」についてです。＜総会のスライドはこちら→

繰り返しお話ししてきたことは次の3つでした。これからはいろいろな機会にお話させていただきます。

- ① 「当たりまえ」の反対の言葉は「ありがとう」→当たりまえに感謝したい。
- ② 「タイ (たい)」と「サイ (さい)」→「〇〇したい」という主体性・意欲を大きくしたい。
- ③ いろいろひっくるめて一人の人間。丸ごととらえる。→良いところと直したいところ (努力したいところ)、調子のいい時と調子の悪いとき。どちらかの一面がその人ではなく、両方ともその人。

さて、4月11日に入学式を終え、第1日目の授業を迎えた幼稚部2クラス、小学部4クラスを訪問しました。さっそく子どもたち、そして先生方のたくさんの「たい」を見つけることができました。私にとっては2回目の授業訪問です。その様子をお知らせします。

幼稚部 A組 おひさま組

私がおじゃますると、担任の先生が「校長先生に質問がある人？」と子どもたちに投げかけ、「好きなものは何ですか？」と質問してくれました。聞いてみたい、知りたいの表われです。また、「〇〇です。」と語尾まではっきり言えると先生はすかさず褒め、「すごいじゃん」というお父さんの声も聞こえました。

B組 にじ組

〇×クイズをやっていました。「寝る前にはおはようと言う」クイズには、元気な声で一斉に「おやすみなさい！」の答え。「悪いことをしたら」「ごはんを食べるときは」等基本的な挨拶のクイズもありました。「いつも家の中で使ってもらとうれしいです。」と日常的に使えるようになってほしいという願いを感じました。

小学部1年

- 数を実物（●●●）や数字（3）で示し、「これと同じものを部屋の中から見つけてきてください。」と促され、探しに行きました。筆を3本誇らしげに見つけてきた子もいました。授業の終わりの時間が気になりつつ急ぐ先生に、「先生早すぎだよ。」とストップをかける子もいました。授業の終わりは対面のように日直さんが号令をかけました。
- 先生の指名に、「はい」と返事をしてから自分の意見を言うという約束の勉強をしていました。指名されるとついついうれしくてすぐに意見を言ってしまうがちですが、少しずつ「はい」と返事をしてから意見を言えるようになっていました。
- 子どもの意見に「すごい！」と驚きの表情を見せながらほめる先生。手作りの魚が池の中からジャンプすると、水がかからないようにノートで自分の頭を隠す子。対面で授業が行われているように感じるくらいでした。先生も思わず「ぬれなかった？」とやさしく声をかけていました。
- とにかく話をしたくてたまらない、日本語を使いたくてたまらない様子が見受けられました。正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方で線を書く勉強をしていました。

「か こ さ と し」さんをご存じですか？

漢字で書くと「加古里子」。1926年福井県でお生まれになり、2018年に92才でお亡くなりになりました。「からすのパンさん」や「だるまちゃんシリーズ」はご存じの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今後、「はなみずき」の中で紹介させていただこうと考えているのは「**子どものカレンダー**」です。

各月1冊の全12冊。「今日の人」や「今日はどんな日」と称して、その日の出来事や生まれた方たちの紹介をはじめ、その日に関係すること（トピック）を基本的に2ページでまとめてあります。日本の風習や遊びなどのことを紹介しながら、「おうちの方へ」という欄を設け、そのページの意図が書かれています。

ちなみに、今日4月24日は

<きょうのひと>牧野富太郎さんが生まれた日。

<きょうはどんなひ>1870年、わが国で初めて種痘が行われる。

<トピックは『つくしのわらべうた』>「つくしは、はる にほんじゅうの のやまに できます。

かわいい ぼうず あたまを しているので、こどもたちからかわいがられています。」

という説明の後に、少しずつ地方によって異なる歌が紹介されています。

「つくし だれのこ すぎなのこ つくしの ぼうやが めが さめた」（宮城）

<おうちのかたへ>春になると、スギナは、地下茎から胞子茎＝つくしを出し、その胞子で増えていきます。つくしのふしにあるはかまをとって煮つけるとホロっとした苦みのある山菜として食べることができます。